

① はまなか

議会だより

NO 142

令和4年10月15日発行



9月定例会

予 審	算 議	ふるさと納税への取り組み強化は	2P~3P
一 質	般 問	4人の議員が町政を問う	4P~7P
		瑞色鮮 (倉田 聖梨 さん)	8P

表紙の写真

9月18日、きりたっぷ子ども自然クラブ会員(20人)の6人が「マウンテンバイクさんぽ」という体験にチャレンジ!!
湿原センターから霧多布温泉「ゆうゆ」までの約10kmの道のりをマウンテンバイクで走破。終点「ゆうゆ」の温泉に浸かり、疲れをいやしました。
みんな頑張ったね!

補正予算審議から

9月
定例会
7日～8日



上野駅のイベント会場

ふるさと納税への取り組み強化は

9月定例会が7日・8日の2日間の会期で開催。一般会計・特別会計補正予算と条例改正など11議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。一般会計は1億2959万円を追加し、予算総額82億8221万円となりました。一般質問は、4人の議員が登壇しました。

問 北海道応援フェスタ負担金110万円と旅費85万

円の内容および返礼品の開拓・パンフレットのリニューアル・特設サイト更新は。

また、現時点のふるさと納税による寄付の状況は。

答 北海道応援フェスタはJR東日本と北海道新聞社が共催で行うふるさと納税PRイベントである。

負担金は、10月の横浜駅40万円・11月の上野駅70万円で、ブース料・車内広告・駅構内でのデジタル広告・WEBサイトでのイベント告知など。期間中は、JR職員

FWA基地局の修繕は

がブースを担当するが、土日に町職員2人が出張する2回分の旅費である。両駅の利用者のみならずSuicaなど首都圏のカード会員約1200万人とJR東日本社員7万人にも周知されることから、PR効果は大きいと思われる。新たな返礼品に浜中町内で採れたハチミツ製品と、このハチミツを使用した乳製品を追加。パンフレットの作成は業務委託している。

リピーターに特化したサイトの作成を検討中。

また、ふるさと納税の状況は、本年4月から8月末で寄付件数1万2170件、寄付額2億25万円であり、前年同期比2813件・5072万円の増である。

例年、年末にかけて大幅に増えることから、イベントなどの効果に期待するとともに、今後も浜中町のファンづくりに取り組んでいく。

問 FWAは10数年前にADSLと同等のインターネット通信手段として農村・漁村地区に整備された。基地局の修繕料45万円は全町に光回線が整備された今も必要か。また、光回線接続状況は。

答 現在、14件がFWAを利用しており、通信障害を解消するための予算措置である。ただ年数も経っており、今後も故障が発生する可能性があることから、光回線への接続を含め利用者の意向を把握したい。

また、光回線の接続状況は7月15日時点でNTT東日本への申し込みが571件である。携帯電話事業者などの契約を含めると相応な件数になると思われる。

赤潮関連予算の内容は

問 両漁協ともウニ漁再生に向け5カ年計画を作り取り組んでいる。環境・生態系保全緊急対策事業負担金941万円の内容は。

また、10月から稚ウニの放流が始まるが、昨年のような種苗購入費の補助は。

答 事業負担金は、両漁協の潜水ウニ漁活動組織が実施している漁場環境回復などを図る取り組みへの補助で、事業費の負担割合は国が70%、道が15%、町が15%である。

内訳は、浜中海域の漁場

環境回復を図る生残ウニ移植事業費など1209万円・環境把握のための種苗購入代など3804万円の町負担分752万円。同じく散布海域では、666万円・595万円への町負担分189万円である。

また、昨年の補正予算であったウニ種苗購入補助は今回含まれていないことから、国・道に対して継続的な支援を強く要請している。

オミクロン株対応のワクチン接種は

問 新型コロナウイルスワクチン接種経費2539万円は、オミクロン株に対応した2価ワクチン分であるが接種時期と対象者は。

また、第7波では児童・生徒の感染者が増えている。5〜11歳への接種は、保護者への努力義務となったがこれまでの接種率と今後の対応は。

答 2価ワクチンは、9月下旬までに1セット1100人分が供給予定であり、

9月30日の4回目接種者からとなる。オミクロン株への有効性から2回目を接種した全ての人を対象に順次接種券を郵送する。

また、5〜11歳の接種率は約55%であり、努力義務となったことから接種率の向上に努めたい。

教育委員の任命に同意

野村孝紀氏は、9月30日付で任期満了となることから、無記名投票の結果、全員賛成で引き続き適任と認め、任命することに同意しました。



野村 孝紀氏
(仙鳳趾)

II 工事請負契約を可決II

□新川船揚場整備工事
(契約先) 赤石建設(株)
(契約金額) 7271万円
(工期) 令和5年3月20日

決算審査特別委員会を設置

令和3年度各会計の決算書が監査委員の意見書を添えて議会に提出されたことにより、議長・議選監査委員を除く10名の議員による委員会を設置し、閉会中の継続審査とした。

意見書(可決)

◇国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書 (全員賛成)

可決した意見書は、内閣総理大臣をはじめ関係大臣、衆・参両議院議長に提出しました。

その他の主な歳出 (一般会計)

歳出の内訳	金額
ウニ養殖業協業化設備導入事業補助(洗浄機7台分)	210万円
火災報知器修繕(旧西円小)	140万円
パソコン等購入(農業委員会タブレット15台分)	48万円

一般質問

川村 義春 議員



川村 人口減や高齢化で人手不足に悩む地域産業に職員が副業で従事することを認める制度の導入を日高振興局が6月から始めた。

道内自治体では、渡島管内鹿部町はホタテやコンブ漁の手伝い、十勝管内新得町は、収穫期の人手不足を補う農業支援で職員の副業を解禁。本町も基幹産業の昆布干し作業や搾乳作業など

問 町職員の副業を認める制度の創設を

答 来年4月施行に向け制度設計したい

に従事できるように職員の副業制度を創設し、労働力不足による地域の衰退を防ぐ必要があるのでは。

町長 副業制度は、本町の基幹産業の労働力不足解消が大きな目標である。町の服務規程で「公共性が高い」「特別な利害関係がない」「副業による心身の疲労によって本来業務の遂行に支障を来たさない」「公務の公平、中立性を妨げない」などの基準を制度設計し、来年4月の創設に取り組み。

問 空き家バンク制度創設の目的は

答 空き家を有効活用し、まちの活性化を

川村 空き家バンク制度を創設する目的は、また、特定空き家の判定を受けた家屋解体助成の現

状上限額50万円の増額は、**町長** 町内における空き家の有効活用により、本町への定住促進、地域経済の活性化を図ることが目的。

また、解体費用は5割増しの状況。解体助成の上限額の増額は、新年度に向け、内部委員で構成の検討会議もしくは外部委員の協議会に諮り、スピード感をもつ



乾いたコンブの尺切り作業

て対応したい。

問 津波避難施設建設のスケジュールは

答 津波避難対策緊急事業計画(5カ年)で整備

川村 令和5年度から、事業を進めるには、早急に計画づくりが必要であり対応は。

また、避難困難地域住民から出された共通意見は。

町長 来年度からの事業実施は、11月中の事前協議が必要で、避難対策検討会報告書と地域協議を踏まえ、津波避難タワー3基の建設事業計画を策定する。

また、新川・仲の浜・琵琶瀬地区住民の意見総意は、「一刻も早く整備を」であり、非常に重く受け止めている。

川村 避難施設整備に係る国庫補助残の支援を道補助や公共事業等債に求める要望活動をすべきでは。

町長 要望活動は、釧路管内期成会を含め、北海道にも強く要望していく。何としても、町民の命を守ることに最優先。この特措法ができたので積極的に進める。

一般質問

田甫 哲朗 議員



問

「MO-TTOかせて」を
多目的公園に

答

多目的な視点から
利活用を検討

田甫 中山間地域活性化施設「MO-TTOかせて」は整備から約20年となるが、近年の利用状況は。

町長 特産品開発などの加工施設は有効利用されているが、多目的広場やパドックの利用は減少傾向である。ただ、アウトドア志向の高まりからキャンプ場の利用は増加している。

田甫 キャンプ場の利用料



「MO-TTOかせて」の鳥瞰図

とゴミ処理料は適正額か。

町長 利用料金は他市町村とほぼ同額であるが、ゴミ処理料は課していない。町指定のゴミ袋を購入してもらったなどの改善を図りたい。

田甫 遊具も設置されているが、キャンプ場を除く外構施設の年間利用日数と主な利用目的は。

町長 令和3年度の実績はパドックが1日で多目的広場が27日であった。主な利用は、保育所や小学校の遠足のほか家族連れであり、遊具も利用していると思う

が把握していない。

田甫 「子ども子育て支援計画」のアンケート調査で「より充実を図ってほしい子育て支援」への回答は。

町長 「子どもが安心して遊べる公園などの整備」が最も多く約70%であった。

田甫 この施設は、例年約1200万円の予算できれいに維持管理されている。当初の目的にとらわれず多目的に利用できる公園として整備し有効活用すべきと考える。例えば、

* 児童用・幼児用遊具を充

実させ子育て支援を図る

* 利用の少ないパドックの一部をドッグランに改修

* キッチンカーによる飲食スペースを設置

* 野菜や特産品の販売ブースの設置

* 青年部が実施するイベントの充実・強化

各団体・サークルなどが参画することで活用の幅も広がることを期待できる。ふるさと納税などを財源に「多目的公園」として整備する考えは。

町長 この施設は「農村総合整備モデル事業」として当時の建設省補助を受け、製品開発加工体験施設をメインに農林課・水産課・商工観光課などが協議して整備された。加工体験施設は、20年経つとも目的通り活用されているが、外構施設はニーズの変化に合わせた対応が必要と考えている。

一般質問

小松 克也 議員



問 琵琶瀬展望台の修繕予定は

答 今年度中に補修工事を行う

小松 琵琶瀬展望台の階段の踊り場と床のフローリングや手すりの腐食・割れが目立つが修繕の予定は。
町長 特殊工法で造った展望台であるため、当時建設設計した地元業者に補修の見積もりを依頼しており、ある程度観光客の入り込みが落ち着いてから補修工事を行う。



修繕が必要な琵琶瀬展望台

問 いじめやハラスメントの現状と対策は
答 全国的傾向にあり適切に対処している
小松 全国的に小学2年生がいじめのピークになっており、また教員などのハラスメントも問題になっているが、本町の事例や解決策は。

教育長 本町でも学年が下

がるにつれて、いじめの件数が増える傾向にある。大変多いということではなく、小学2年生で7件の報告があるが、いじめ防止基本方針の改定により、いじめの定義が明確になり「悪ふざけ」や「いじり」「からかい」など相手が嫌なことをされた数がいじめの件数に入っている。また、人間関係を増えづらいうちからいじめが起きてくる。いじめに早期発見、早期解決が大切である。学校では、困っている時のサインの出し方を教育するプログラムもあり、子ども相談支援センターでの電話やメールの相談が整っており、周知されている。また、児童・生徒に一人一台の端末が配られており自分の今の気持ちを

道教育委員会や町教育委員会に伝わるようにシステム化されている。その発信を受け子どもたちと対話がなされている。教職員のハラスメントについては、毎年公立学校共済組合の心の健康ストレスチェックを実施しており、現在ハラスメントについての申し出などの案件はない。

問 スポーツ振興で活性化を

答 今後もスポーツ振興に取り組みたい

小松 町民がスポーツを通して、地域の活性化に繋がる活動は。

教育長 本町は、他町村にない取り組みも実施し野球やスピードスケートでは全国優勝をしたこともあり、陸上や空手なども活躍している。少年団や部活動もボランティアで指導している地域の人や先生も成績を上げるため努力している。今後多くの町民が参加できるように創意工夫し、スポーツ団体と協議連携し、スポーツ振興が地域の活性化に繋がるよう努力したい。

一般質問

渡部 貴士 議員



問

観光貢献度を 可視化できないか

答

実態を把握するのが難しい

渡部 観光業は地方創生の切り札とされ、本町は自然・文化・気候・食という観光振興に必要な要素を兼ね備え、国内外からその魅力を感じ、国内外からその魅力を感じ、体験するために人々が訪れて滞り、消費活動を行っている。いかに観光客が地域経済に貢献しているかや新たな観光事業が地域の暮らしにどう役立つのかを分かりやすく伝える必要がある。

ると考える。
本町の観光の現状課題と観光政策をどのように考えているか。

町長 本町は霧多布湿原や広大な放牧地と豊かな漁業資源など、貴重な野生動物の生息地として価値の高い観光資源に恵まれているが、新型コロナウイルス感染症によって観光客のニーズに合わせた情報発信が求められている。魅力ある地域づくりのために観光客を受け入れる環境基盤の整備が必要不可欠であり、交通手段の確保、宿泊施設の充実、ガイドの人材育成など、観光振興と感染症対策を併せて考える必要がある。

本町の未来を見据え、地域ならではの高付加価値な商品やサービスを開発し、観光振興による持続可能な事業を構築して交流人口や関係人口の確保により、地域消費額の増大を図るための観光地域づくりが必要である。「ふるさと納税」制度は、返礼品だけでなく地域の魅力を発信するパンフレットを作成し浜中ファンの

獲得を目指したい。

渡部 総務省の「家計調査」や観光庁の「旅行・観光消費動向調査」によると、定住人口1人あたりの年間消費額は約120万円であり、日帰り旅行者1万5千円・宿泊国内旅行者5万円・訪日外国人旅行者15万円の経済効果があるとされている。昆布干し民泊などの漁業体験を観光貢献度の可

視化と浜中町人口ビジョンを併せて考察することはできないか。

町長 浜中町人口ビジョンは、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計を基にして産業に従事するなどの定住人口を長期的視点で設計しているため、実態を把握しにくい交流人口などと比較考察することは難しいと考えている。



カヌー体験後に花咲ガニを食べる外国人観光客

瑞色鮮

霧多布高等学校
2年A組

倉田 聖梨



「浜中学」を学んで

一年生では「浜中を知る」というテーマで活動しました。酪農体験学習では、町内の酪農施設に行き、子牛への哺乳や、最先端の搾乳ロボットの見学をとおして、酪農技術や家畜の生態などを学びました。同じ浜中町に住んでいても初めて体験することばかりで、驚きと発見がたくさんありました。さらに、琵琶瀬木道と湯沸岬で写真を撮り、フォトコンテストを行うなど、浜中の魅力を再発見することもできました。エゾカンゾウやアヤマなど他では見られない植物に恵まれている

ことも知ることができ、浜中の観光資源の素晴らしさを改めて実感しました。秋には浜中町の食材を使ったオリジナルピザを作りました。ピザに使う食材を

から考え、ピザの構成も含めしっかりと計画を練って本番を迎えました。当日は一人ひとりがデザインしたピザを作り、最後に皆で美味しくいただきました。ピザ作りでは班員と作り方を工夫したり、協働してピザを作るなど、協調性を得ることができました。これらの校外学習で多くの知識や浜中の魅力について得ることができました。

二年生では「浜中を調べよう」というテーマに基づいて活動します。初めに、浜中町内で開催するイベントを考察しました。どうすれば浜中に人が来てくれるのかを内容やコスト、来場者数、時期など意見を出し合いました。どの班も斬新なアイデアばかりで、中には実現できそうなイベントもあり、浜中町の活性化に役立たせたいと考えました。現在は、浜中アドベンチャートラベル研修と題し、霧

多布湿原センターさんの協力のもと、デイキャンプを行う予定です。クラスメイトと協力しあってデイキャンプの計画としおりの作成をしています。デイキャンプでは、釣りやハンモックなどの自然体験を通じて浜中町の自然の魅力を感じたいです。また、クラスメイトと協力をするだけでもつと絆を深め、協調性を向上したいと考えています。

三年生では、浜中学の集大成である浜中学報告会があります。報告会では、三年間で学んだ浜中の実態を町内外の皆さんに伝える予定です。まだまだ知られていない浜中町の豊かな自然や産業を誠心誠意、今後発信していきたいです。

三年生では、浜中学の集大成である浜中学報告会があります。報告会では、三年間で学んだ浜中の実態を町内外の皆さんに伝える予定です。まだまだ知られていない浜中町の豊かな自然や産業を誠心誠意、今後発信していきたいです。

- 揮毫 書道部3年B組 竹詰ゆずかさん
- 読み方 ずいしょくせん
- 意味 めでたい光景。



町のトピックス

全保育所合同イモほり収穫体験!

9月13日撮影

今年も昨年に引き続き、農協の畑で「イモほり収穫体験」が行われました。当日はあいにくの天気模様でしたが、子どもたちはたくさんのおイモを手に笑顔いっぱいの様子でした。



町のトピックス (話題) を 募集します!

この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和5年1月15日です。ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gika@town.hamanaka.jp TEL: 62-2265

この議会だよりは、再生紙を使っています

発行 北海道浜中町議会 議会広報聴常任委員会

〒088-1592 北海道厚岸郡浜中町湯沸4-45番地 0153-62-2265